

季刊ジャネット Ja-Net

スリーエーネットワーク

October 2023

No. 107



Contents

- 4 あちこち日本語ご紹介
東京都 北区
- 5 みんなの“日本語 View from the Other Side”
李 昊洋 (中国)
- 6 教材紹介
「聞いて慣れよう日本語の敬語
ー場面学ぶ日本語コミュニケーションー」
「日本語教師をめざす人のための
スモールステップで学ぶ 文法」
- 8 インフォメーション

唐津くんち

巻頭寄稿

学校の「あたりまえ」の再考と子どもの自尊感情の育成 ーダイバーシティ・インクルージョンの推進を目指してー

広島大学 D&I推進機構 ダイバーシティ研究センター
准教授 櫻井里穂

増え続ける外国籍児童生徒

「ダイバーシティ・インクルージョン」という言葉に馴染みはありますか。ダイバーシティとは、人種や民族・国籍・性別・年齢・信仰・学歴・文化・価値観などさまざまな異なる属性(多様

性)のことです。そして、多様性が尊重され、集団の中で対等に共存していく過程や状態がインクルージョン(包摂)です。現在、日本の学校では、Ja-Net 前号掲載の帰国子女やサードカルチャーキッズに加え多様な国の子どもたちが学んでおり、その数は小・中学校合わせて11万人に迫ります(次頁図1)。これと比例して、国内の小・中学校在籍の「日本語指導が必要な児童生徒」も増加の一途を辿り、文部

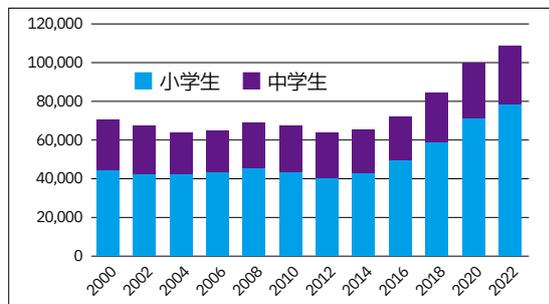
科学省によれば、2021年では総計52,395人(外国籍42,469人、日本国籍9,926人)が該当しています。

2019年には「日本語教育推進法」が制定されましたが、学校の文化や慣習が異なる国々から来た子どもたちと日本の子どもたちがどう共生していくかは、今後の日本の学校や社会の在り方にかかわる重要事項です。本稿では、まず、外国籍児童生徒に関して現段階の情報提供とその課題を示し、

次に、文化摩擦を避けるヒントとなる学校の「あたりまえ」を再考する視点の大切さについて述べます。最後に、ダイバーシティ・インクルージョンの推進の一助のため、子どもたちの自尊心の育成について考えたいと思います。

情報提供とその課題

文部科学省は2011年から、帰国・外国人児童生徒教育のための情報検索サイト「かすたねっと」を通じてさまざまな情報を発信しています。入学予定の子どもたちと保護者に向けた学校紹介動画(15か国語)や、多文化理解に役立つJICA横浜作成の「11か国の教育制度・学校文化ガイド集」(2023)の紹介がそうした例です。また、同省は2019年、外国人児童生徒等教育アドバイザーの派遣を開始し、外国籍の子どもたちの指導に関する情報提供の機会を設けています。一方で、文化摩擦をより生じやすい保護者対応、たとえばどういった場面で保護者の理解・協力を必要とするのか、といった点などについてはまだ十分な情報がありません。外国ルーツの子どもが多い小学校で日本語指導を担当する先生方もこの点で苦心しており、保護者対応に関する研修や説明会の実施を希望されています。近年、保護者の国籍や在留資格も多岐にわたり、母国や日本での社会的な立場が大きく異なっています。子どもよりも異文化に慣れるのに時間がかかる大人(保護者)への対応をどう進めていくのかという点



◀ 図1 外国人児童生徒数(全国の小・中学校) 2022年は過去50年で最多の108,380人。「学校基本調査」より筆者作成

▼ 写真1 おやつ休憩の時間に各自持参してきたおやつを食べる3年生(ブータン)



は喫緊の課題でしょう。

学校の「あたりまえ」の再考を

それでは初めて日本の学校で学ぶ外国籍の子どもたちや保護者にとってどうした点が文化摩擦のもととなるのでしょうか。世界には実に様々な学校のスタイルがありますが、ここでは「休憩時間」と「筆記用具」の2点を挙げます。多くの世界の学校(ヨーロッパ諸国、北米、中南米、南アジア、オセアニア)では、日本のように5分休憩が授業毎にあるところは珍しく、通常2時間あるいは3時間続けて授業が行われます。続いて少し長めの「休憩時間」があります(二宮編、2023)。この長めの休憩時間は、多くの国でおやつ休憩であり、子どもたちはお菓子や果物など各自家庭から持ってきたものを食べます(写真1)。勉強で頭を使うと、

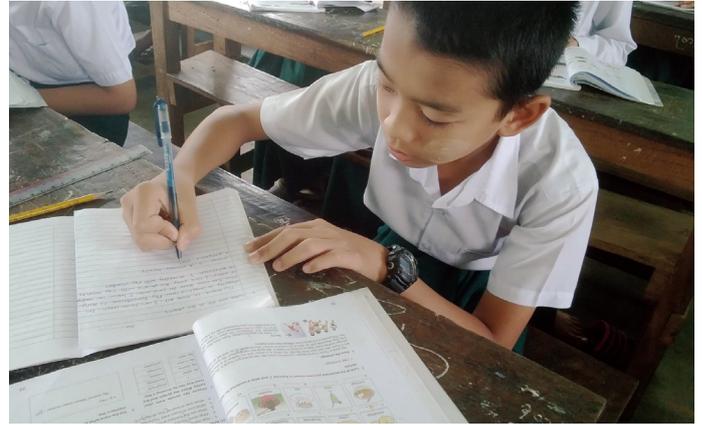
疲れた脳が糖分を欲するため、その補充だそうで、理にかなっていると思います。ですが、母国と同じようにおやつを持参すれば、日本ではおやつは「学校に必要なもの」ですから、先生に没収されたり、場合によっては保護者への注意の電話ということもあるでしょう。また、日本では休憩時間はトイレ休憩という意味合いもありますが、多くの国では子どもたち自らがトイレに行きたい時に意思表示をして席を外します。日本式は授業に支障がないように環境が整備されているように見えますが、同時に子どもたちの意思表示の機会を一つ奪っているとも言えます。

日本の学校で想定される「筆記用具」も世界標準ではありません。たとえば日本では、小学生なら学校では鉛筆を使うことが「あたりまえ」です。写真2はミャンマーの5年生の様子ですが、同国では学年が上がるにつれ、徐々に鉛筆からペンへの移行が推奨され、中学生となる6年生以上は文字を書く時に必ずペンを使用します(写真3)。これは、中学校以降の試験の筆記がインク限定という事情もありますが、ペンを無難に使いこなせて初めて一人前

“違い”を超えて、支え合う



▲写真2 翌年の中学校進学に備え、ペンで書く練習をする5年生(ミャンマー) 黒字印刷とのコントラストで読みやすく、多くの国で青ペンが使用されている



▲写真3 青いペンで綺麗にノートをとる7年生(ミャンマー) 自己管理能力の育成のため、腕時計の着用も推奨されている

の学習者として本格的な学びへの準備ができたと思なされるからです。日本のように、学年が上がっても、普通に鉛筆やシャープペンシルを使用し続けるのはあたりまえのことではないのです。

「休憩時間」や「筆記用具」などの小さなことにも異なる歴史や背景があり、文化摩擦の種になり得ます。外国の子どもたちや保護者にも、日本の「あたりまえ」は通じない、ということをもまず理解すべきだと思います。

また、学校では「なるべく波風をたてないように、その子がいじめの対象とならないような対応を」という「消極的予防」の観点で動いているように感じます。筆者の住む地域の中学校でも、いまだに腕時計や冬の防寒具の着用を禁止しています。それは、「紛失・盗難防止」であったり「何かあると困るから」という未然にトラブルを防ぐという観点、「みな同じなら大丈夫」という同調圧力ですが、これではいくら「令和の日本型学校教育」と謳っても個性の尊重が難しく、ダイバーシティ(多様性)の実現と逆行する現状があります。世界には様々な学校のスタイルがあり、多種多様な文化と触れ合うなかで、それらを尊重しつつ、「あたりまえ」を見直し、新しい日本の学校のスタイルを模索すべき時が来ていると思います。

子どもの自尊感情の育成とダイバーシティ・インクルージョンの推進

最後に自尊感情の育成について考えてみたいと思います。筆者はここ数年、ブータンと日本の中学生を対象に自尊感情の調査をしています。どちらの国でも、家族を含め「誰かの役に立っている(有用感)」という気持ちが強ければ強いほど、子どもたちは自分のことを肯定的にとらえていました。社会心理学者ローゼンバーグ(1922-1992)も指摘していますが、自尊感情は自己受容・自己有用感とも高い相関があります。自己受容ができることは、生涯を生き抜く力の基本なのです。

外国籍の子どもたちがいる学校のかなには、外国人だからと子どもたちも保護者もまだまだお客さん扱い、あるいは支援される一方の弱者として捉えているところもあるかもしれません。様々な国籍の子どもたちが学ぶ学校で、より平等な共生社会を実現していくためには、互いの文化を尊重しつつ、一人一人が学校にとって大切な存在であり、「役立っている」という体験を日々の学校生活や行事のなかで自然に育んでいく教育が大切でしょう。文化の違いを理解し、それを受け入れることは一筋縄にはいかないかもしれません

が、学校側と保護者側が互いの考え方の違いを理解しようとする姿勢もまた不可欠でしょう。日本のやり方を一方的に押し付けるのではなく、疑問に思ったら尋ねてみる、ということも大切です。国籍を超え、互いに尊重し、支え合い、各々が活躍できる学校づくりこそがダイバーシティ(多様性)を超えたインクルージョン(包摂性)へ繋がり、ひいては大人も巻き込んだ多文化共生社会の礎を築くことになるはずです。

(参考文献・WEBサイト)
二宮皓編著(2023)『世界の学校—グローバル化する教育と学校生活のリアル』学事出版
文部科学省「学校基本調査」
<https://bit.ly/3QM0s1>
文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(2021年度)
<https://bit.ly/45Blp7Q>
文部科学省 帰国・外国人児童生徒教育のための情報検索サイト「かすたねっと」
<https://bit.ly/480XJvI>



櫻井里穂
(Sakurai, Rihoko)

広島大学 D&I 推進機構ダイバーシティ研究センター准教授。ペンシルベニア州立大学大学院教育理論政策・比較国際教育学博士(Ph.D)。インクルーシブ教育や多文化理解、多様性・包摂性について広く研究。近年の業績に『世界の学校』(2023) pp. 76-79, pp. 226-233、「インクルーシブ教育の受容実態」『ブータン学研究』(2022) Vol. 5, pp. 25-42 等。

あちこち日本語ご紹介

東京都 北区

外国ルーツの生徒が学ぶ、定時制課程

東京都立飛鳥高等学校 定時制課程

主任教諭 外国語科(英語) 紺野敦志

7割の生徒が日本語を勉強する定時制課程

飛鳥高校は東京都北区にあり、定時制課程(夜間)には1年生から4年生まで約70人の生徒が在籍しています。そのうちの7割が日本語指導を必要とする外国ルーツの生徒で、両親の仕事の都合で来日した「日本語を全く学んだことがない生徒」も交じります。定時制課程の使命は「意欲がある生徒に広く学びの機会を提供すること」ですから、「日本語ができるかどうか」は入学時に問われません。そして「学びの機会の提供」に関して、私は「日本語」も含まれるべきだと考えています。

さて、私は英語科教員ですが、本校では英語を教えず「日本語の専任教員」に近い立ち位置です。私が日本語を教えるようになったきっかけや飛鳥高校のことを、少しご紹介できればと思います。



導入はオリジナルのスク립トで。文法の意味と使い方を推測させる
(['みんなの日本語 中級』授業の様子)

笑顔で「わかりません！」

私は高校に約20年勤めています、15年ほど前から日本語指導を必要とする生徒が定時制課程に入ってくるが増えたように思います。15年前、英語の授業で「Environment = 環境」と教えてから「環境とは何ですか?」と聞いたところ、笑顔で「わかりません!」という返事が返ってきたことがあります。英語も日本語も十分ではない外国ルーツの生徒は「わからないもの(Environment)」を「わからないもの(環境)」と結びつけても、「わからない」の再生産になるだけだったのです。「これではダメだ。日本語を教えるしかない」そう思いました。

生徒を授業の前と後に呼んで補習をすることにしました。しかし、日本語を教えたことも教え方を学んだこともなかったため、最初は日本語の教科書と指導書を見比べて一度授業のリハーサルを行い、それから生徒に教える、この繰り返しでした。私は日本語教育



タブレット型PCで前回の授業の復習テスト

能力検定試験の勉強も行い、少しずつ日本語指導の仕方を学びました。

「授業」としての日本語教育の必要性

飛鳥高校定時制課程には国語や社会の取り出し授業、外部講師による日本語講座がありました。加えて放課後の補習も設けましたが、生徒はアルバイトや部活動で忙しく、夜遅い放課後の補習に参加できる状況ではありません。生徒たちには「日本語そのものとしっかり向き合う機会」が圧倒的に不足していました。

そこで、私は副校長と相談し1年生を対象とする学校設定科目(講座や補習と異なり卒業単位になる)「日本語I」の設置に動きました。これが認められ後年、2・3年生を対象とする「日本語II」「III」の設置が叶い、在学中の継続的日本語学習の機会を確保することができました。

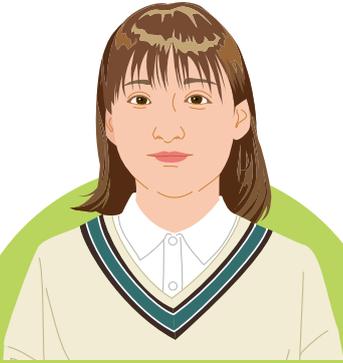
変わったのは日本語への気持ち

日本語科目を設置し、よかったことは日本語が全く話せない生徒も自信をもって受け入れられる体制が学校にできたこと、そして生徒の日本語学習に対する姿勢が変わったことです。以前は「日本語は話せばいい。漢字やJLPTは必要ない」と言う生徒が多かったのですが、JLPTを受ける生徒も増え、高校卒業後の進路に専門学校や大学を目指すことも増えました。

今年度から日本語学習を「特別の教育課程」として組み込み、全国の高校で卒業単位に認めることができるようになりました。外国にルーツを持つ多くの高校生が希望の進路に進めるよう、学習環境の整備が一段と進むことを祈っています。

みんなの“日本語View from the Other Side”

このコラムでは、学習者や日本語に携わる方の視点から話題をお届けします



李 昊洋 (リ・ハオヤン)

2000年 中国の黒竜江省で生まれる

2016年 来日

2017年 飛鳥高校(定時制課程)へ入学、
日本語を学ぶ

2020年 明海大学 外国語学部日本語学
科へ入学、日本語教育を学ぶ

2023年 飛鳥高校で日本語教育を支援

Illustration 内山洋見

16歳、日本語学習 経験ゼロで来日。 夢は日本語教師

—定時制課程で学んだのですね

飛鳥高校の定時制課程は、外国の生徒向けの授業をしてくれます。学校見学で先生の熱意・親切さが伝わってきて雰囲気がとても好きになり、ここを選びました。

入学してから午前は日本語学校(編集室注:当時、飛鳥高校に「日本語科目」はありませんでした)、午後は高校に通い、6限が終わる21時まで勉強する生活が始まりました。私はちょっと焦っていたかもしれません。「生活のための日本語も十分じゃないのに、スムーズに高校を卒業して、大学に進学できるのか?」心配でした。進学目指して「猛勉強!」です。

クラスは半分が日本の生徒、もう半分は外国の生徒で、学校でのコミュニケーションはもちろん日本語です。日本語でたくさん話す環境だったので、習得に役立ったと思います。2年生の7月に、大学進学に必要なJLPT N2に合格することができました。

—高校生活は大変でしたか

困ったのは、中国語にはない「敬語」です。先生・先輩・同級生・後輩と話すとき、どんなことばが適切か考えながら話すのは難しいです。でも、

学校生活に心配は要りませんでした。飛鳥高校の先生は、親身になって生徒を気遣ってくれました。スクールカウンセラーの先生も、困ったことがあればいつでも相談にのってくれます。生徒を大切にしてくれる先生を見て、「私も先生を目指そう」と思うようになっていました。

—大学での専攻は何ですか

2020年に日本語教員養成課程がある明海大学に入学しました。コロナウイルスの感染拡大で授業がすべてオンラインになり、想像していたのとは違う、キャンパスに全く通うことができない大学1年目でした。2年目は週に1・2回通学し、大学の別科日本語研修課程の留学生の相談にのったり、渡航制限で来日できない留学生の会話練習(オンライン)の相手になったりするお手伝いをはじめました。

今は週1日、飛鳥高校の日本語授業(『みんなの日本語 中級I』)を担当して、試行錯誤しつつ学んでいます。私が所属する木山三佳先生のゼミでは、ゼミ生が伝統的に飛鳥高校の日本語学習を支援してきたのですが、このことは全く偶然でした。

来年は大学院に進学して日本語・日本文化への知識を深め、将来「生徒が授業で楽しく日本語をマスターできる」そんな先生になりたいです。

—日本語を学ぶ後輩たちに、 メッセージをお願いします

「何のために勉強するのか、しっかり目標を立てること」「目標に向けて、努力を続けること」の2つが大切です。しっかりした目標があれば、勉強は嫌なことではなくなります。皆さんの努力もきっと、夢の実現につながるはずです!

—来日のきっかけは何ですか

家族の仕事で、2016年に来日しました。当時16歳で、日本語は全く勉強したことはありませんでした。故郷の友だちと離れるのは残念でしたが、日本に行くのが嫌だとは思いませんでした。日本のスポーツ漫画やアニメ、そして『名探偵コナン』が大好きでしたし、桜や富士山などの日本のきれいな風景にも憧れがあったからです。高校進学までの半年間、地域の日本語教室に通いました。周りには優しい日本人が多く、「日本語や日本文化をもっと深く知らなくてはいけない」と思いました。

『聞いて慣れよう日本語の敬語—場面で学ぶ日本語コミュニケーション—』

坂本恵・高木美嘉・徳間晴美 編著 宇都宮陽子・福島恵美子・丸山具子・山本直美・吉川香緒子 著
B5判 131頁 別冊20頁 2,420円(税込) 好評発売中



敬語の聞き取りを通して、話し手の意図や配慮を理解する力を養う

東京外国語大学名誉教授 坂本恵

目的・特徴

本書は、日本語学習者が、日本の商業施設や公共施設で聞く「敬語を含んだことば」を理解できるようになることを目的としています。「敬語を(聞いて)理解できる」ということは、単に敬語の形や用法がわかるということだけでなく、その発話がどのような意図を持っているか、そこで敬語が使われる理由は何か、つまり、敬語を使って誰にどのような配慮をしているのかを理解できるということです。本書では、敬語の形や種類の理解はもちろん、発話した文全体の意図(発話者が「伝えたいこと」)についての問いを通して日本語で配慮を表す方法について考えさせながら、敬語についての理解を促すよう工夫しています。

構成・内容

はじめに(英語、中国語、ベトナム語訳付き)

1. 日本語の敬語を理解しよう
日本語の敬語の種類(『敬語の指針』に基づく)とその説明

2. 話し手が伝えたいこと(意図)を理解しよう
話し手の意図について6つに分け、敬語を使って表そうとしている意図についての説明

3. 配慮を表す方法
敬語を使う方法と伝え方を工夫する方法

ユニット1 駅・交通機関(3場面)

ユニット2 買い物(4場面)

ユニット3 食事(4場面)

ユニット4 公共施設(4場面)

ユニット5 生活(3場面)

ユニット6 イベント(2場面)

各ユニットの最後に「チャレンジ問題」あり

巻末 敬語一覧

*全部で40の会話(もしくはアナウンス)があります。

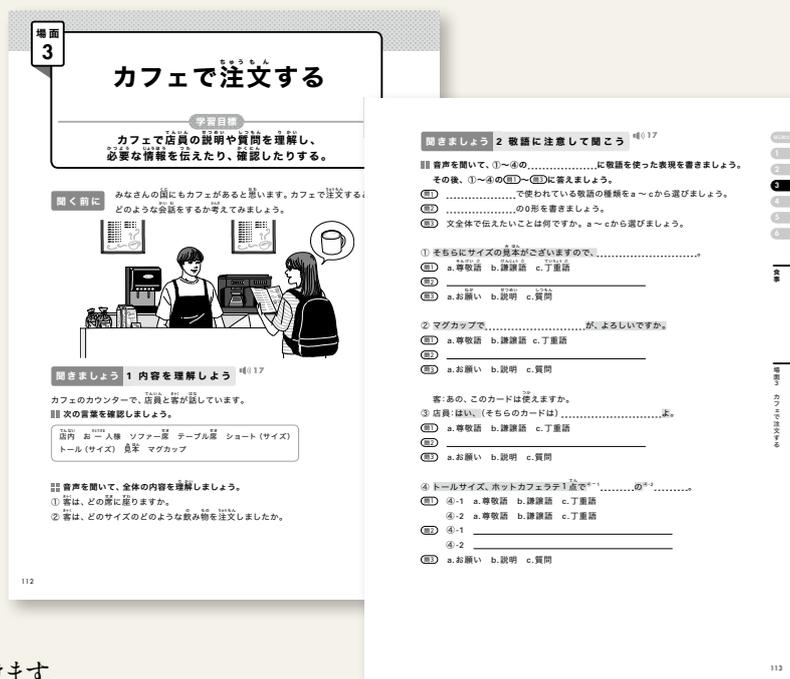
*音声はスリーエーネットワークのWebサイトから聞けます。

使い方

まず、「はじめに」の1~3で、敬語や表現意図、配慮を表す方法について理解します。その上で、敬語が使われている会話やアナウンスなどの聞き取り練習をします。

聞き取り練習には「聞きましょう1~3」の3段階があります。1で概要をつかみ、2で敬語に注目したあと、3で会話やアナウンス全体の詳細を理解し、敬語を使った発話への理解を深めます。本書では、まず客や利用者の立場で聞いて理解できるようになることが重要だと考えているため、敬語を含んだ表現を「です」「ます」レベルに置き換えて意図をつかむ練習も取り入れています。各ユニットの最後にある「チャレンジ問題」は応用的な内容です。各ユニットで扱った場面のバリエーションとして学習者に提示するとよいでしょう。

本書をきっかけとして、敬語を使ったコミュニケーションへの理解が深まり、授業で取り上げられる機会が増えていくことを願っています。



『日本語教師をめざす人のための スモールステップで学ぶ 文法』

原沢伊都夫 著

B5判 225頁 別冊34頁(予定) 2,200円(税込) 10月発行予定



日本語教師をめざす人の試験対策に役立つ一冊

静岡大学名誉教授 原沢伊都夫

現在、多くの日本語教育機関が教師の採用条件に「日本語教育能力検定試験合格」を挙げています。日本語教育能力検定試験(以下、検定試験)は1987年に始まり、これまでに日本語教育の現場に一定の人材を供給してきました。2024年度からは、日本語教員になるための国家試験(以下、日本語教員試験)が新しく始まる予定です。今後は、文部科学大臣から認定された日本語教育機関で教えることができるのは、日本語教員試験に合格し、実践研修を修了した登録日本語教員だけになります。日本語教員試験の合格がこれまでの検定試験以上に重要な要素となることが確実視されています。本書は、このような日本語教育能力を判定する試験において不可欠の知識とされる日本語文法をわかりやすく解説するテキストとして作られました。

本書の特徴

本書の最大の特徴は、日本語教師をめざす人にとって必要とされる文法知識をステップ・バイ・ステップで得られるように解説している点です。日本語教育の経験も知識もまったくない人でも1ページずつ納得しながら、理解を深めていけるような構成になっています。全部で10章あり、その内容は、「品詞分類(学校文法)」から始まり、「学校文法と日本語文法」「日本語文の構造」「自動詞と他動詞」「ヴォイス」「アスペクト」「テンス」「モダリティ」「複文」「談話、肯否、縮約形、敬語」と続き、日本語教師にとって必要とされる文法項目をカバーしています。

構成と学び方

各章の始めには、「実力診断クイズ」があり、どれくらいその章の知識があるかを確認します。ここでは点数の善し悪しは関係ありません。自分の現在の実力を客観的に知ること、問題意識をもってその章の内容に取り組むことができるようになります。章内の各項目は、基本的に見開き2ページで、

左ページで文法項目を解説し、右ページでその要約とともに「基礎問題」と「実践問題」で知識の定着を図ります。章の最後にある「まとめ」で勉強した内容を振り返り、「練習問題」でこれまでの理解を確認します。最後に、日本語教育能力を判定する試験を模した「実力診断テスト」にチャレンジすることで、章の学習を終えた時点での実力を測ります。

本書を執筆するにあたり、検定試験に出題された過去の文法問題を分析しました。項目別に分類してみると、驚くような事実が判明しました。それは、試験Iでは、「品詞分類」の問題が一番多かったのです。私の個人的な計算によれば、全体の約2割が品詞に関する問題でした。経験的には感じていましたが、これほど多いとは予想を超えるものでした。次に多かった項目が「日本語の基本構造(格助詞や主題)」と「複文」です。これら3つの文法項目で全体の5割を優に超えています。その他にも、日本語文法の入門書ではあまり扱っていない談話や肯否、縮約形などの項目も出題されているため、最後の章でまとめて扱うことにしました。

できあがった原稿を眺めてみると、試験対策用の内容ではありますが、日本語教師にとって必要とされる文法項目が漏れなく入っていると感じています。文法は苦手意識の強い人が多い科目だと言われますが、そんな方でも本書を片手に一歩ずつ文法知識を身につけていってほしいと願っています。

●シリーズラインナップ(刊行予定)

『日本語教師をめざす人のための
スモールステップで学ぶ 音声』

『日本語教師をめざす人のための
スモールステップで学ぶ 教授法』

